

かどがわ家庭学習モデル

5・6年生の家庭ドリル学習



教科書を何度も読んだり、できるようになるために漢字や計算を何度もくりかえして練習したりすることを、ドリル学習と言います。学校で習ったことを、うちに帰ってもう一度くりかえし練習すると、勉強したことがしっかりわかるようになります。ドリル学習は、勉強がぐんぐんできるようになる、大切な勉強方法です。

“かどがわ家庭学習”のやくそく



- 1 学校の宿題は、必ず最初にすませましょう。
- 2 「かどがわ家庭学習」にしたがって、勉強を進めましょう。
- 3 「かどがわ学びノート」を使って、^{たくしゅう}宅習しましょう。
- 4 必ず答え合わせをして、まちがえたところはやり直しましょう。
- 5 勉強したあとは、うちの人に見せてサインをもらいましょう。
- 6 学習ノートは、次の日、先生に見てもらいましょう。

“かどがわ家庭学習”の進め方

◇ 勉強のめあて

5・6年生のめあて

- 宿題をした後、進んで自分の勉強ができるようになりましょう。

5・6年生の時間のめあて

- 1日に、50分～60分以上、勉強しましょう。

◇ 勉強の順番

1 学校からの連絡やプリントなどを、うちの人に渡しましょう。

2 まず、宿題をしましょう。(できたら、うちの人に見てもらいます。)

3 自分の考えた宅習をしましょう。(「かどがわ学びノート」を見て)

- 国語で学習しているところを、声を出して読みます。(2～3回)
- 国語の勉強をします。(教科書やドリル帳を使って、丸つけとやり直しもします。)
- 算数の勉強をします。(教科書やドリル帳を使って、丸つけとやり直しもします。)
- 社会や理科などの大切な語句や言葉を練習します。(教科書や資料を見ながらします。)

※ 読み声は、毎日します。
学習は、いくつか組み合わせてします。

4 読書をしたり、日記を書いたりしましょう。

5 学校に行く準備をしましょう。(学習予定や連絡帳を見て)

◇ 勉強の計画

- 曜日ごとに学習をはじめる時刻を決めましょう。
 - ※ できるだけ夕食前にするようにしましょう。
 - ※ 見たいテレビや習い事のことも考えて決めましょう。



曜日	日	月	火	水	木	金	土
始める時刻	時分	時分	時分	時分	時分	時分	時分

※ 日付を書きましょう。

※ 今日の勉強のめあてを書きましょう。

《ドリル帳コーナー》

(ドリル帳を使って、授業と同じところを勉強しましょう。)

○ ページや問題の番号を入れるようにしましょう。

○ できなかったところをもう一度練習しましょう。

勉強したことが
わかるように線を
引きましょう。



- 漢字練習では
 - ・ 読みがなと漢字をいっしょに書いて、練習しましょう。
 - ・ 漢字は、言葉のまとまりで練習しましょう。
- 算数の計算では
 - ・ 式と計算のしかたも書きましょう。
 - ・ 計算のあとは消さないようにしましょう。
- できたら、丸つけをしましょう。

《授業の復習コーナー》

(授業で習ったことをもう一度勉強しましょう。)

○ 大切なところを声に出して読んだり、線を引いたりしましょう。

○ 教科書のページや問題の番号を入れるようにしましょう。



- 今日習ったことを、教科書やノートを見ながら、もう一度復習します。
- できたら、丸つけをしましょう。
- できなかったところを中心に勉強しましょう。
- できなかったところは、1回だけではなく、何回も書いて練習しましょう。

- 勉強する広さは、問題の数や書く量によって、ちょうどよい広さをとるようにしましょう。
- 解答のページを見て、答えを書かないようにしましょう。

《くいかえしコーナー》

(大切なことを、もう一度練習しましょう。)

○ 今までにわからなかった言葉や計算を何度も書きましょう。

○ 自分の苦手な勉強を中心にしましょう。



○ 今までに習ったことで大切な言葉や計算などをもう一度練習しましょう。

○ わすれてはいけないことを書きましょう。

○ 苦手な教科を中心に勉強しましょう。

○ できなかったところは、1回だけではなく、何回も書いて練習しましょう。

《がんばりコーナー》

(自分で考えた勉強をしましょう。)

○ その日あったことや考えたことを日記に書きましょう。

○ 自分でたりないと思う勉強をしましょう。



○ 社会や理科などの勉強をしましょう。

○ 自分の得意な勉強をしましょう。

○ 辞書や資料で調べたことなどを書きましょう。

○ 明日の勉強で予習したことを書きましょう。

※ ここには、一言感想を書きましょう。
うちの人にも一言書いてもらいましょう。

※ うちの人のサイン

○ 社会や理科などの勉強では、教科書の大切な図を写したり、大切な言葉を何回も書いたりして練習するなど、工夫しましょう。

○ 教科以外の勉強では、日記や読書の感想など、自分の考えを書くことなどを取り入れるようにしましょう。